一宮市国際交流協会（iia）ニュース

かけはし

iia
ichinomiya international association

Vol.98
2024

ニュージーランド
文化理解セミナー

夏休み
ホームスティ

Have a wonderful life in Ichinomiya

外国人児童生徒向け
進路説明会

おりもの感謝祭一宮七夕まつり
通訳案内ボランティア

異文化料理
セミナー

Instagram　Facebook　Website

一宮市国際交流協会

ようこそ一宮七夕まつりへ、多言語で案内しますよ～

おりもの感謝祭一宮七夕まつり案内所　7月25日～28日

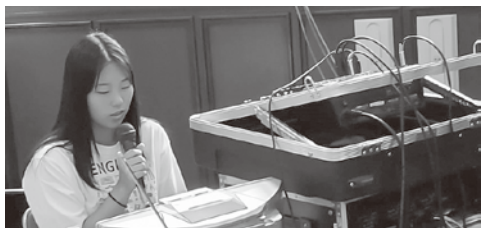
2024 年のおりもの感謝祭一宮七夕まつりが幕を閉じました。会場全体に日本語と英語でアナウンスをするボランティアチームと、外国人向けに多言語での会場案内を行うボランティアチームによる活躍がありました。

英語や多言語に自信のある高校生や大学生および一宮市国際交流協会の通訳ボランティア総勢 46 人が参加しました。7 月初旬には説明会を行い、シフトを組み分けました。

アナウンスチームは日本語と英語の放送内容を実際に読み上げて練習しました。多言語案内チームは英語、中国語、韓国語、ベトナム語、タガログ語、スペイン語、ポルトガル語と広範囲の言語に対応できる体制を整え待ち受けました。また両チーム通訳ボランティアの証として、各担当言語が書かれた職員お手製のデザイン T シャツも配付されました。

▲ タガログ語、英語、ポルトガル語対応

アナウンスチームはお祭り期間中に定期的に放送を繰り返しました。幸いにして事故などの緊急対応はなかったですが、日本語での迷子の放送が何度かありました。放送機器は無料休憩所があるオリナス一宮の入口脇に置かれ、そこで 15 分ごとに放送を繰り返していました。



▲ 一人で15分毎に放送案内

一方多言語案内チームは i- ビル 1 階の案内所に置かれました。問い合わせとして多かったのが、外国人にも人気なコスプレパレードなどのイベント内容や会場への行き方でした。他に盆踊り会場への道順、うちわ配布の詳細などでした。案内所に訪れた外国人は 92 人でした。おりもの感謝祭一宮七夕まつりの知名度が世界に響き渡るようお祈りします。（あんちゃん）

▲ 外国人案内対応

通訳案内ボランティア体験談

佐藤 優利奈 さん

一宮七夕まつり通訳案内ボランティアでの経験は、私にとってもかけがえのないものになりました。外国の方に英語でおすすめの食べ物や場所を伝えたりすることは、初めての体験だったのでとても楽しかったです。また、日本語でも案内することがあったり、ティッシュやうちわ配りをして大変でしたが有意義な時間でした。参加する前は、うまくできないのではないかと不安に思うこともありましたが市役所職員の方々が助けてくださったので安心して活動をすることが出来ました。この経験を通して、もっと英語学習を頑張り、今後もこのような機会があったら参加したいです。

iia ワールド スターフェスティバル

i-ビル3Fシビックテラス　七夕ステージ　**7月25日**

第 69 回おりもの感謝祭一宮七夕まつりが 7 月 25～28 日の 4 日間開催されました。シビックテラスには特設ステージが設けられ、一宮市国際交流協会は初日 25 日に海外の演奏者・ダンサーたちによる国際色豊かな「iia ワールドスターフェスティバル」を披露しました。

まず、国際交流員のキアーラさんとアリスさんの司会でスタート。イタリア、ブラジル、ベトナムの3組の出演者たちがそれぞれの国の七夕や星にまつわる祭りについて紹介しながら、素敵な音楽やダンスで観客を魅了しました。

まず 1 組目は、一宮でもお馴染みのイタリアのアコーディオニストのアンジェロ・アクィリーニさん。アンジェロさんの演奏で国際交流員と観客が一緒に踊ったり、ステージを楽しんでいました。また、アンジェロさんの演奏を聞きにと赤ちゃん連れのお母さんがはるばる大府市からみえていました。ステージ後にはアンジェロさんとお話しされ記念撮影も。2組目は名古屋などを拠点に活動している、ブラジルのサンバチームのオ・ペイシ。軽快なサンバのリズムに乗せた歌と華やかなダンサーたちの踊りに観客は目がくぎ付けでした。また、ブラジルの七夕物語をダンスで披露するなどとてもユニークでした。3組目は大阪で活動している大阪ベトナム友好協会のみなさんの歌謡・舞踊ステージ。ベトナムの伝統文化的な踊りだけではなく、流行りの音楽でのダンスも披露してくれ、観客もリズムに合わせ体を揺らしながら楽しんでいました。

企画担当側の感想としては、「各ステージで色々な海外の文化、違うジャンルの音楽やダンスを楽しんでもらえた」、「日本人以外も見に来ていて、手拍子や踊りで楽しんで良い文化交流ができた」という反面、「観客がやや少なかった。次回は広報活動をもっと頑張りたい」など次年度に向けての抱負も語ってくれました。

記者が今回感動したのは、途中で雨や雷が鳴る天気の中、観客が一宮や近隣の市からだけでなく、岐阜や三河地方など遠方から何人も見に来ていて、一緒に音楽やダンスを楽しんでくれたことです。次年度は海外の人を含め、もっとたくさんの人が来て、楽しんでくれるといいなと思います。

(katsu)

英語放送アナウンサーボランティア体験談

池谷 笑茉 さん

何かを発信する事が大好きな私に学校の先生が勧めてくださった「一宮七夕まつり英語放送アナウンサー」。一宮市で生まれてから 17 年間、一宮七夕まつりは私にとって毎年楽しみにしているイベントです。当日は、15 分置きに熱中症予防や休憩所案内などの常時アナウンスに加え、迷子のお知らせなど慣れない状態が続きましたが、私の声が七夕まつりに来ている人の耳に届いているのだと思うと胸がいっぱいになりました。人生で初めての英語アナウンスという貴重な体験は私の大切な夏の思い出の 1 つです。

異文化料理セミナー
「好呷（ホージャー）！台湾料理セミナー」

尾西生涯学習センター料理実習室　7月14日

調理室は家族連れや母子の方々の参加者で狭く感じるほどのなか、台湾生まれのデンマーク人、枡本 シェネッテ・チチ・ホー先生の料理セミナーが催されました。

台湾は日本から飛行機で約 4 時間と近く、日本語が聞かれたり、日本語看板が見られたりするとても親日的なところです。高温多湿で暑いのですが、そのため果物の種類も多くておいしく、最近では 10 年ほど前からコーヒー豆の栽培がはじまり、おいしい台湾コーヒーが誕生しました。日本で有名なタピオカドリンクは、1989 年ごろ台中市内の女性が考案したのが始まりです。お寺が多く、屋台や夜市もたくさんあり、そこでいろいろな台湾家庭料理が食べられます、など台湾文化の紹介がありました。

セミナーでは家庭料理の滷肉飯（ルーローファン）と、キューリのサラダ、豆花（トウファ）の三種を作りました。

滷肉飯（ルーローファン）は、豚バラ肉とミンチにシイタケなどを醤油ベースでよく煮込み、ご飯にかけたものです。焦げ付かせないように、子供たちも交代して滷肉を混ぜながら煮込んでいました。

みなさんから、「台湾に行ったことは無いですが、どんな味がするのか楽しみで参加しました」、「子どもが家庭科で料理を習うので参加しました」など聞かれ、真剣に説明を聞いていました。先生は調理中に各テーブルを回り、アドバイスをしながら笑顔で交流をされていました。

試食後の感想は、「意外に難しくなかった」、「とてもおいしかった」などが聞かれ、セミナーはとても好評でした。

先生から最後に、「みなさんの料理のレパートリーを広げ、家庭で作っていただければ幸いです」と、言葉が送られました。　（ドリアン）

クッキングボランティア体験談

クッキング班リーダー　小川 政子 さん

久しぶりの先生を招いての台湾料理セミナーをサポートさせていただきました。ボランティアは各テーブルに一人ずつつき、私はフリーでのお手伝いになりました。料理の方は先生の指導のもと順調に進みました。ただ、器具の不調で炊飯がつまずきました。お米の予備もない状態でしたし、もう炊飯器では間に合わないので急きょ変更して、ガスコンロを使い炊きなおすことにしました。焦りましたが間に合い良かったです。メニューの「滷肉飯（ルーローファン）」は、ここ最近ブームになっている事もあるのか、今までになく若い世代の主婦の方が来られていて凄く嬉しかったです。

世界をあそぼう！フレンドシップフェスティバル

イオンモール木曽川 ノースコート　9月21日～9月22日

恒例のフレンドシップフェスティバルが２日間にわたってイオンモール木曽川で開催されました。世界各国の文化、風習や音楽、舞踊などを楽しみながら知る体験ができる催しでした。

毎回人気がある民族衣装の体験ブースでは、大人も子どもも民族衣装を着て楽しんでいました。

ワンコインクラフト体験のコーナーでは中国のでんでん太鼓、ニュージーランドのおもちゃもあるなか、イタリアのベネチアンマスクが人気で、飾りつけを工夫してオリジナリティ溢れるマスク作りを楽しんでいました。

ステージではイタリアのマンドリン奏者アレックスさんとピアニストの植村里穂さんによるイタリアのメロディーが流れていました。

さらにキューバ人のエルメスさん主催のエルメスダンスカンパニーによる、サルサダンスも賑やかに始まりました。ダンスの合間にキューバ音楽の歴史についての解説もありました。サルサ音楽をいっそう身近に感じることができ、キューバの歴史についても学ぶことができました。

（you 都市）

イベントボランティア体験談

イベント班リーダー　富山 弘美 さん

フレンドシップフェスティバル。9月下旬の土曜、日曜にイオンモール木曽川で開かれるこのイベントをご存じでしょうか?

7年程前から開催されていましたが、コロナ禍などでボランティアと参加者がふれあう機会がなくなり、2023 年からまた少しずつ face to face で活動することができるようになりました。ここでは2日に渡ってメインステージで様々な国のパフォーマンスを観ることができ、国際交流員の母国を中心とした遊びやクラフトづくりを、私たちボランティアがサポートして楽しい時間を過ごします。屋内開催ならではの世界の民族衣装を着て写真を撮るコーナーでは、韓国のチマチョゴリやハイジのような民族衣装が引っ張りだこでハンガーに戻す暇もないほどでした。ボランティアが衣装の着替えを手伝い、写真撮影は家族にしてもらいます。今年は数カ国の子どもの民族衣装を新調したので、男の子も悦に入ってポーズを決めていました。数年前まではポラロイド写真をプレゼントしていましたが、今はスマホでの撮影です。

民族衣装体験は、今年は大人の衣装がなかったので親子で写真に収まるケースはまれでした。私は30年以上ボランティアをしていますが、20年程前に協会のイベントで母と2人でチマチョゴリを着て、インスタントカメラで撮ってもらいました。今となっては貴重な写真であり大切な思い出となりました。

めまぐるしい2日間でしたが、終わってから思うのはまた来年も会えるかな?という楽しみへのつながりです。

ニュージーランド文化理解セミナー
ニュージーランドの伝統遊び体験

オリナス一宮　8月21日

ニュージーランド出身の国際交流員アリスさんによる、子どもを対象としたセミナーが開催されました。

「Mū tō rere（ムー トー レレ）」「Poi（ポイ）」「Poi rākau（ポイラーカウ）」は、いずれも先住民族マオリの遊びで、ニュージーランドの子どもたちはみな学校で体験して知っているそうです。

「ムー トーレレ」はボードゲームで、それぞれ4つのコマを置いて、ボードの空いているマスに移動させ、動かせなくなったら終了というものです。シンプルなルールですが、子どもたちに聞くと強い人は強かったそうで、ちゃんと攻略法があるようでした。

「ポイ」は紐についたボールを使って遊ぶもので、今回は歌に合わせて高いところや低いところで回したりしました。

「ポイ ラーカウ」は、10人で輪になって棒を持ち、「Maui（マウイ）(左)」、「Matau（マタウ）(右)」の声で、持っていた棒を離し、右や左の棒を取りにいき、棒を取れなかった人が脱落していくというものです。マオリ語を瞬時に脳内変換して右左に動くというのに、最初みんな苦労して、すぐに棒をカラカラと落としていました。しかし何回か練習をしたらすぐコツをつかんだようでした。だんだん脱落して少人数になるにつれすごい真剣勝負となり、大盛り上がりでした。　（ヒノ）

夏休みホームステイ体験談

七島さんファミリー　8月20日～8月24日

今回は岐阜大学のインドネシア人留学生Angieさんを1週間という短期間ではありましたが、我が家に受入させて頂きました。我が家は大人2人と子供2人（6歳・4歳）という家族構成となっており、Angieさんのような年代の方との交流は少ないこともあり、大変貴重な体験となりました。

受入初日は国際交流協会の方にAngieさんを連れて来て頂き、自宅での初対面。私は外出中だったため、妻と子供のみでの受入対応となりました。しかし、私が帰宅する頃にはAngieさんは子供達と仲良く遊んでおり、既に打ち解けている様子でした。

Angieさんは器用かつ気さくな方だったので、ホームステイ中は子供達と絵を描いたり、折り紙やカルタ取りをしたりと、たくさん一緒に遊んでくれました。また食後の食器洗いなどの家事も自ら進んで行う方だったので、こちらも遠慮なくお願いし、役割分担をして生活をしていました。

平日の昼間は妻とカフェ、138タワー、図書館、スーパー等へ出掛けたり、自宅近隣を散歩したりとアクティブに過ごしていたようです。Angieさんの誕生日がホームステイ中だったため一緒にケーキを買いに行き、夜にバースデーパーティーをしたのも良い思い出となりました。

最終日の週末には、涼を求めてドライブがてら関ヶ原鍾乳洞へ。今まで訪れる機会のない場所だったこともあり、Angieさんにも楽しんで貰えたようで良かったです。

我が家としても初めてのホームステイ受入だったため、試行錯誤ではありましたが、お互いに学びの多い経験だったかと思います。言語面は元より、近くのスーパーでハラルフード※を売っていること等含め、新たな気付きも多々ありました。このような機会を頂き、ありがとうございました。

※ハラルフード…イスラム法で食べてもよいとされている食品のこと。

おとなりさん

中国からやってきた葉華(ようか)さんを紹介します。葉華さんは上海の西側にある鉄鋼業で有名な馬鞍山(まあんさん)市の出身。元々、上海で日本との合弁会社に勤めていたが、2 年前に一宮にある本社に転勤してきました。

会社は環境関連の設備製造業で、葉華さんの主な仕事は中国語と日本語の通訳です。葉華さんは会社が環境に優しい仕事をしており、自分がそこで働いていることにとても誇りを持っているとのことでした。しかし、日本は同じアジアだが国も文化も言葉も違うので、やはり苦労する点も多いようです。

葉華さんが一宮でとても感心していることは、みんなが自分のことだけではなく街のことを心配し、街を良くしようと努力していることだそうです。そして、色々な人たちが親身に相談に乗ってくれたり、快く協力してくれることにすごく感謝をしているとのこと。また、現在住んでいるマンションでも、みんな優しくいろいろ教えてくれたり、月に 1 回集まって一緒に掃除をしたり仲良くしてくれるのでとても楽しいそうです。しかし、一宮は七夕まつりなどお祭りの時以外は静かなので、もっとワクワク感が持てるような街になったらいいなと言っていました。

趣味は料理。自分が作った中国料理を日本人に食べてもらって、みんなと一緒に盛り上がるのが楽しいと言っていました。将来の夢を聞いたら「本場の中国料理の店を持つこと。そしてみんなに食べに来てもらい、楽しんでもらいたい」と目を輝かせていました。葉華さんの夢が早く叶うといいですね。(katsu)

iia information

在留手続相談会

▼日　時 / 2024年12月8日(日曜日)
第1部　午前11時から正午まで
第2部　午後2時から午後3時まで
▼場　所 / 第1部　向山公民館　2階　中会議室(一宮市古金町1丁目12−1)
第2部　三条つどいの里(一宮市三条賀11−1)
▼内　容 / 在留手続について名古屋出入国在留管理局の人に相談できます。英語、タガログ語、ベトナム語、中国語の通訳がつきます。

外国人向け交通安全教室

▼日　時 / 2025年1月18日(土曜日)　正午から午後2時まで
▼場　所 / 尾西自動車学校(一宮市篭屋3丁目12−45)
▼内　容 / 自転車のルールなど日本の交通ルールについて多言語で学びます。

国際交流ふれあいボウリング

▼日　時 / 2025年1月18日(土曜日)　午後3時から5時30分まで
▼場　所 / アソビックスびさい(一宮市篭屋3丁目9−1)
▼内　容 / 日本国籍の方と外国籍の方が一緒にチームを組んでボウリングを楽しみます。

祝おう!旧正月 2025

▼日　時 / 2025年2月2日(日曜日)　午前10時から午後3時30分まで
▼場　所 / i-ビル3階　シビックテラス(一宮市栄3丁目1−2)
▼内　容 / 各国の民族衣装や伝統遊び、クラフトを体験できるブースのほかお菓子などの物販を行います。

*各イベントの詳細につきましては後日ウェブサイトにて公開いたします。
*iiaでは、協会事業を支える国際交流基金への寄付を募集しています。詳しくはiia事務局までお問い合わせください。

地球あっちこっち

余裕のあるドイツ人の生活

三浦　光俊 さん

ドイツのフランクフルト日本人国際学校での３年間の勤務を終え、この３月に帰国しました。その中で見てきたドイツ人の生活についてお話します。

運動が生活の中に組み込まれている人が多いです。夕方になると散歩やランニングをしている人で公園はいっぱいになります。散歩やランニングのできる大きな公園が街中に点在している環境があります。自転車道も整備されているので、自転車で通勤通学している人も多いです。それぞれの地区にクラブがあり、サッカー、バスケットボール、卓球、テニスなど各種スポーツができるようになっています。音楽など文化的な活動をする人も多いです。学校は２時ごろには終わりになりますし、仕事も定時で終わる人が多いので、学校や仕事が終わってから、運動や芸術活動などに取り組むことができるのです。クラブは地域の人が自分たちで運営しているので、無料もしくは廉価で活動できます。

また、家族を大切にして、家族で過ごす時間をきちんと取っている人が多いです。有給休暇が年に 30 日、６週間ほどあります。年度の初めに有給休暇をどこで取るかを決めて、連続で３～４週間のバカンスに出かけます。子供がいる家庭は学校の休みに合わせて取ることが多いようです。だから、バカンスの時期が集中しないように、州によって学校の休みがずれています。例えば学年末の夏休みは７月すぐに始まる州もあれば、８月になってから始まる州もあります。夏休みはだいたい６週間です。バカンスの時期は病院や会社も開店休業のようになり、仕事を頼んでも「今は担当がバカンス中なので仕事ができません」という対応です。日本では考えられませんが、みんながそれでよいと思っていれば問題はないのです。休暇が取りやすいのは良いことだと感じました。日本より祭日は少ないのですが、休暇をしっかり取れるし、日曜日は飲食店以外のお店は休みになるので、休日は充実しています。クラインガルテンという小さな個人所有の土地が都市近郊に点在していて、そこで週末を家族で過ごす人たちもいます。そこには小さな小屋と庭があり、畑があったり遊具があったりします。

こんなふうに家族を大切にした余裕のある生活ができるのはすてきだなと思いました。

編集後記

夏の終わりに花火大会に出かけました。色とりどりの打ち上げ花火を楽しんでいると、風向きが急に変わり、空から花火玉の皮が降ってきて肩に当たりました。ふと、同じ火薬を使って砲弾を撃ち合い、がれきが降ってきている国もあるのだと考えてしまいました。子どもたちが火薬の匂いを嗅いだとき、恐怖や憎しみではなく、花火を誰かと一緒に楽しんだことを思い出せる世界であってほしいと思います。（伏原）

発行：一宮市国際交流協会（〒491-8501　一宮市本町2-5-6　一宮市役所本庁舎9階 観光交流課内）

一宮市の国際交流協会の中心となって活躍いただく親善ボランティアを随時募集しております。
みなさんも親善ボランティアに参加しませんか？お気軽にお問い合わせください。
＊この「かけはし」も親善ボランティアにより取材・編集されています。
ご意見・ご感想をお待ちしております。【TEL:0586-85-7076　E-mail:kokusai@city.ichinomiya.lg.jp】
当協会に関する情報はウェブサイトをご覧ください。【WEB:https://www.city.ichinomiya.aichi.jp/iia/】